

主題研究

地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導の在り方に関する研究

(第2報)

教科領域教育室 中 田 隆 一

研究協力校

花巻市立湯本小学校

花巻市立湯本中学校

研究の概要

この研究は、学校と地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成するための生徒指導の在り方を明らかにし、学校における生徒指導の改善と充実に役立てようとするものである。

指導実践の結果、地域への発信活動に ガイダンスの工夫、社会的スキルの指導の工夫、 地域の人々との交流活動の工夫を取り入れるという手だては、集団のなかで自己を生かすことができる児童生徒を育成するために必要な「自己理解力、他者への共感的理解力、役割取得力」を高め、さらには児童生徒の社会性を育成するための生徒指導を進めるうえで効果的な方策であることが確かめられた。

キーワード : 地域連携 社会性 生徒指導 発信活動 ガイダンス
社会的スキル

目 次

はじめに	-----	233
地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する		
	生徒指導の指導実践計画案	----- 233
1	社会性についての基本的な考え方	----- 233
2	地域と連携を図ることの意義	----- 233
3	「児童生徒の社会性」のとらえ方	----- 234
4	地域との連携のとらえ方	----- 234
5	地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する	
	生徒指導についての指導試案作成の視点	----- 234
指導実践計画案に基づく指導実践と実践結果の分析・考察		
1	指導実践の目標	----- 236
2	指導実践の計画と概要	----- 236
3	実践結果の分析・考察の内容と方法	----- 236
4	小学校における指導実践と実践結果の分析・考察	----- 237
地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する		
	生徒指導の在り方についての研究のまとめ	--- 247
1	成果として考えられること	----- 247
2	課題として考えられること	----- 247
研究のまとめ		
1	研究の成果	----- 247
2	今後の課題	----- 248
おわりに	-----	248
【主な参考文献】	-----	248

はじめに

生徒指導においては、教師と児童生徒及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育て、児童生徒が集団のなかで積極的に自己を生かすことができるような指導の充実が求められています。ところが、児童生徒のなかには自らを律しつつ他人と協調することが難しかったり、好ましい人間関係を築けなかったりして、集団のなかで自己を生かすことができないなどの社会性が十分に身につけていない状況がみられます。これは、子どもを取り巻く環境が大きく変化し、児童生徒の社会性の育成のために学校と家庭を含めた地域との連携の結びつきが薄いことも原因の一つと考えられます。

そこで、この研究は、学校と地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成するための生徒指導の在り方を明らかにし、学校における生徒指導の改善と充実に役立てようとするものです。

本年度は、2年次研究の完結年度として、昨年作成した推進試案をもとに、実践化に向けて指導実践計画を作成し、指導実践をとおして、手だての効果について確かめました。

地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導の指導実践計画案

本研究の基本的な考え方とそれに基づく基本構想および推進試案については、「地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導の指導実践計画案」の立案の基盤となるものであり、以下にその概略を示します。

1 社会性についての基本的な考え方

「社会性」の定義には、様々なものがありますが、心理学の常用語としては、「広義には、社会の支持する生活習慣、価値規範、行動基準などに沿って行動できるという社会的な適応性であり、狭義には、他者との円滑な対人関係を営むことができるという対人関係能力である」としています。つまり、社会性を広くとらえれば、環境への適応力であり、狭義には人間関係力であると解釈できます。

教育課程審議会答申（平成10年7月）によると、次の四つを、子どもたちが身に付けるべき「生きる力」の核となる、調和のとれた豊かな「社会性」ととらえることができます。

規範意識や公德心
正義感や公正さを重んじる心
善悪の判断、強靱な意志と実践力
自己責任の自覚や自立・自製の心

2 地域と連携を図ることの意義

生徒指導のねらいは、自己指導の力を育てることです。自己指導の力とは、その時、その場でどのような行為が適切か、子どもが自分で判断して実行する能力をいいます。その適切性を決める基準は、他の人の主体性の尊重と自己実現にあります。別の言い方をすれば、他の人のためにもなり、自分のためにもなるという行動を児童生徒が自分で考えることです。どのような行為が適切か、自分で考えて判断できるようになるには、自分で自分の行動の仕方を決めることのできる場、すなわち自己決定の場が用意されていなければなりません。児童生徒に自己決定の場をできるかぎり多く用意して、児童生徒が決断と責任ある行動をすることができるようにすることが大切です。

この自己決定の場を設定するのに有効な活動が、統合的な活動であるボランティア体験や、自然体験、勤労体験などの体験活動です。これらの活動は、学校の中だけの活動にとどまらず、自分たちの住む地域社会において、直接地域の人々や地域の自然とかかわりながら進められていきます。そして、地域の人々との交流や、異年齢集団との交流、お互いの個性を尊重し合う交流のなかで、様々な人とかかわりながら自分で自分の行動の仕方を考え決めていきます。児童生徒は、このような地域での活動をとおして、社会とかかわりながら豊かな人間関係を築き、自己実現を図っていくのです。

3 「児童生徒の社会性」のとらえ方

これまでの社会性に関する研究をもとに、本研究では学校における児童生徒の社会性がはぐくまれた姿を「集団のなかで円滑な人間関係を保ちながら自分のよさを発揮しようとする児童生徒」ととらえ、「集団のなかで自己を生かすことのできる児童生徒」の育成を目指すものとします。さらに、次のような三つの力を培っていくことが「集団のなかで自己を生かすことのできる児童生徒」を育成するために欠かせない大切な要素であると考えます。

自己理解力	(自己を受け入れ、自分を理解しようとする力)
他者への共感的理解力	(自分とは違う他者を共感的に受け入れる力)
役割取得力	(集団において自分のやるべきことが分かり、それを遂行しようとする力)

4 地域との連携のとらえ方

地域との連携は、家族や地域社会に対して、学校自ら働きかけを行い、家庭や地域社会とともに子どもを育てていくという視点に立って行っていくことが重要です。本研究では、この学校の自らの働きかけを総称して発信活動と呼び、児童生徒による活動の発信、児童生徒による情報の発信の二つをとらえます。また、この発信活動は、学校からの一方的なものではなく、地域・家庭・学校の三者の情報交換等、日頃の信頼関係づくりによる相互交流のうえに成り立つものです。

5 地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導についての推進試案作成の視点

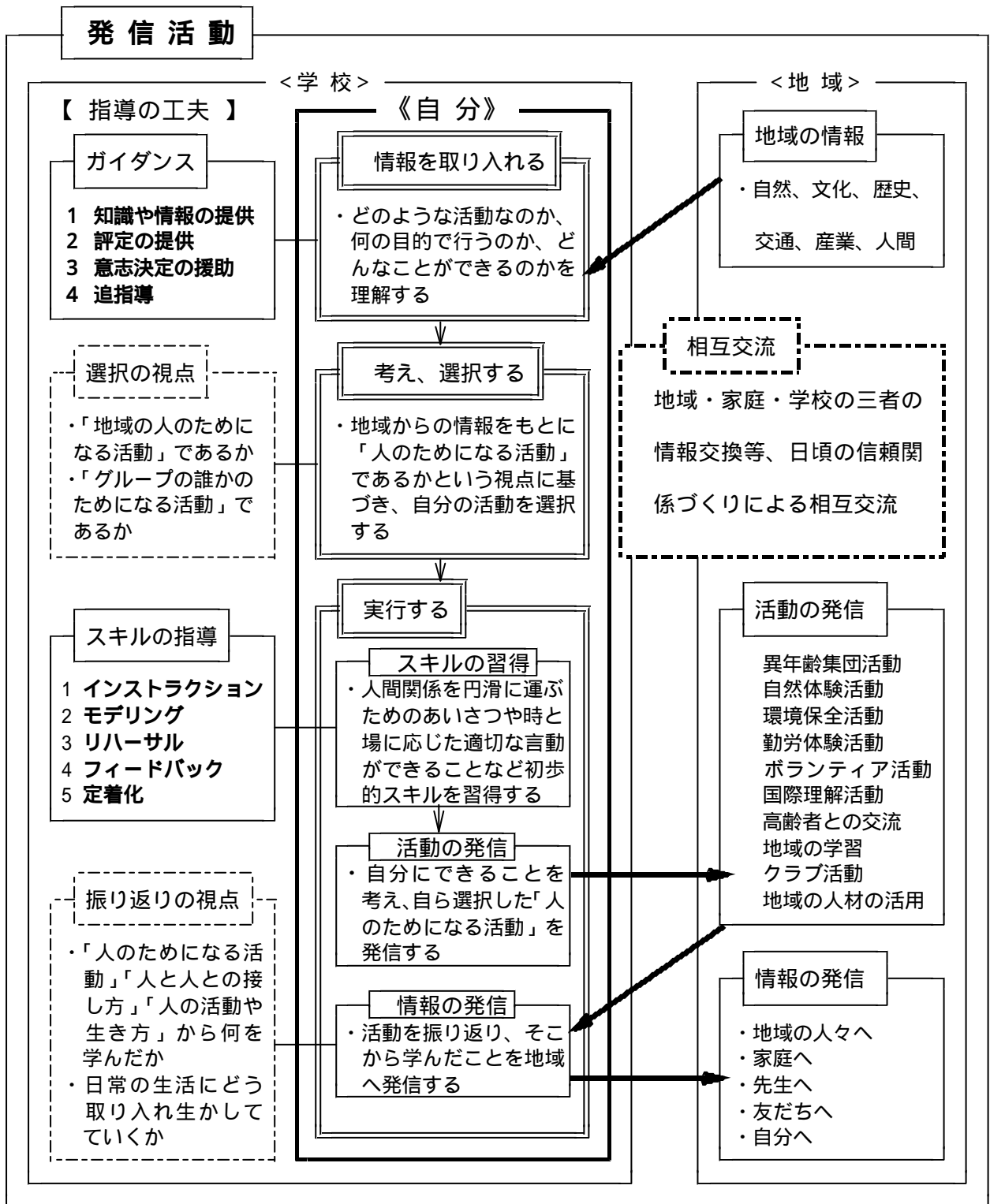
地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導の在り方についての推進試案を作成するにあたり、基本構想と実態調査の分析から明らかになった点をふまえ、作成の視点について次のように考えました。

学校から地域への発信活動が機能的に行われるように、児童生徒の主体的な選択やよりよい決定ができるようなガイダンスの場を設定すること。

地域への発信活動の前に、あいさつや時と場に応じた適切な言動ができることなど、人と人との接し方の簡単な社会的スキルを学ぶ機会を設けること。

児童生徒の社会性を育成するために位置付ける地域への発信活動は、人のためになる活動であること、そして多くの人と交流できたり、繰り返して交流できたりする活動であること。

地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導についての推進試案作成の視点に基づき、【図1】のように、推進試案を作成しました。



【図1】 地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導についての推進試案

指導実践計画案に基づく指導実践と実践結果の分析・考察

1 指導実践の目標

地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導についての指導試案が、小・中学校における生徒指導の実践を改善し、児童生徒の社会性を育成するうえで、適切かつ有効であるかどうかを、推進試案に基づく指導実践をとおして明らかにします。

2 指導実践の計画と概要

「地域への発信活動」の指導実践計画案にかかわり、研究協力校の湯本小・中学校では、地域の老人ホーム「ケアハウス花巻」を実践の場に設定し、次の内容に取り組みました。

「ガイダンスの場の設定」	学級活動『ケアハウス花巻について知ろう』
「自己決定の場の設定」	学級活動『自分の活動を考えよう』
「スキルの習得」	学級活動『会話の進め方を学ぼう』
「活動の発信」	学級活動『ケアハウス花巻を訪問しよう』
「振り返りと情報の発信」	学級活動『今回の体験で学んだことを発信しよう』

3 実践結果の分析・考察の内容と方法

実践結果について、【表1】に示した検証計画により分析と考察を行います。また、「集団のなかで自己を生かすことのできる児童生徒」を育成するうえで必要とされる三つの力が培われた指導場面における児童生徒の具体像の分析については、【表2】の内容をもとにします。

【表1】検証計画

分析内容	分析方法
児童生徒の学習活動の状況	・児童生徒の学習活動における発言内容や行動、学習シートの記述内容などにより、「集団のなかで自己を生かすことのできる児童生徒」を育成するうえで必要とされる三つの力が培われた指導場面における児童生徒の具体像と照らし合わせて学習状況の変化をとらえ指導の効果について分析・考察する。
「集団のなかで自己を生かすことのできる児童生徒」を育成するうえで必要とされる三つの力の変容状況	・指導実践の事前と事後に実施した「児童生徒の意識調査結果」の比較により分析・考察する。
推進試案に基づく指導実践の指導の効果	・指導実践終了後の「担任教師の指導実践についての感想」により、指導の効果について分析・考察する。

【表2】三つの力が培われた指導場面における児童生徒の具体像

三つの力	児童・生徒の具体像
自己理解力	自分の考え方や行動の仕方について良さや悪さがわかり、ありのままの自分を受け入れて、自分を理解しようとする。
他者への共感的理解力	相手の立場や心情、心の変化などを理解しながら他者と協力して活動しようとする。
役割取得力	自分の所属する集団のなかで、自分が何のために役に立つのか、誰のために役に立つのか、自分のすべきことは何なのかがわかり、それを遂行しようとする。

4 小学校における指導実践と実践結果の分析・考察

(1) 指導実践の概要

小・中学校とも実践の場が、老人ホーム「ケアハウス花巻」であったので、ここでは、そのうち小学校の指導実践の概要を【資料1】に示します。

【資料1】「地域への発信活動」の指導実践の概要

10月22日(月) 2校時 情報を取り入れる「ケアハウス花巻について知ろう」

ねらい

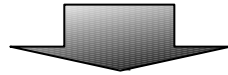
どのような活動なのか、何の目的で行うのか、どんなことができるのかを理解する。【知識や情報の提供】

活動の概要

地域への発信活動が機能的に行われるように、施設の概要や活動の内容・方法について理解させ、生徒の主体的な選択ができるよう、パンフレットやVTRを用いて説明を行った。



< ガイダンスの様子 >



10月22日(月) 3校時 考え、選択する「自分の活動を考えよう」

ねらい

地域からの情報をもとに、「人のためになる活動」であるかという視点に基づき、自分の活動を選択する。【評定の提供(自己の能力についての助言)】【意志決定の援助】

活動の概要

プレゼンテーションソフトを用いて、「ケアハウス花巻」で行う「あやとり」「窓ふき」「会話」「輪投げ」「歌」「草刈り」「掃除」「その他」の活動を紹介し、そのなかから自分にできることで「人のためになる活動」を考えさせ、選択させた。

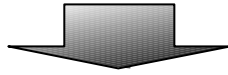
< 活動後の感想から >



< 自分の活動を考察中 >

いろいろなことを
考えていると、次の
活動が楽しみになっ
てきました。パソコ
ンの映像がおもしろ
かったです。よーし、
次も頑張るぞう。

スクリーンに映し
て分かりやすく説明
してもらって、分か
りやすかった。「活
動の種類」のなかに、
ピアノを使った合唱
があって良かった。
ピアノを使って合唱
してみたい。



10月23日（火） スキルの習得「会話の進め方を学ぼう」

ねらい

「ケアハウス花巻」の職員の方々や高齢者の方々との交流を円滑に進めるために、「会話を進めるためのスキル」を習得する。

活動の概要

次のような流れで、「会話の進め方」の指導を行った。

1 インストラクション

初対面の人と会話を行うときに大切なことや上手な会話の仕方について紹介する。

2 モデリング

上手な会話の進め方のモデルを示す。

- (1) あいさつをする。
- (2) 簡単な自己紹介をする。
- (3) 質問をしていいか確かめる。
- (4) 質問をする。
- (5) お礼を言う。

3 リハーサル

4人一組になって会話の練習を行う。

4 フィードバック

質問したり、質問されたりしたときの感想を話し合う。

5 定着化

家に帰り、祖父母や親に対して上手な会話の進め方を練習するよう促す。

<活動後の感想から>

園長さんやお年寄りの人たちとの話の仕方がたくさん覚えられて、とてもうれしかったです。K君の発表がとても楽しかった。ケアハウスに行くのが、もっとももっとも楽しみになりました。

会話の仕方が分り、これからの生活に役立てられそうです。今日学んだことは、絶対に忘れないと思います。でも、質問がうまくいけばいいなーなんて考えちゃったりも。



<会話の進め方の練習>



10月26日（金） 活動の発信「ケアハウス花巻訪問」

ねらい

自分にできることを考え、自ら選択した「人のためになる活動」を学校から地域へ発信する。

活動の概要

湯本小学校の5年生40人が、「ケアハウス花巻」を訪問し、「窓ふき」「会話」「あやとり」「歌」「輪投げ」「草刈り」「掃除」「その他」のなかから自分で考えた「人のためになる活動」を発信した。

< 活動後の感想から >

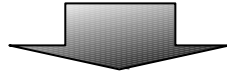
おばあさんたちとたくさん会話したり、遊んだりして楽しかったです。輪投げでは、私は初めは1点だったけど、2回目は、21点だったのでうれしかったです。25点も取ったおばあさんがいたので、すごいと思いました。短い時間だったけれど、みんなと触れ合うことができ、とても楽しかったです。

あまり質問できなかったけど、ちゃんとお話ができて良かったし、遊ぶことができたのでうれしかったです。良かったです。車いすに乗っていたおばあさんや、他のおばあさんたちと遊べたし、お部屋を見せてもらったりして、楽しかったです。車いすに乗っていたおばあさんに、人形をもらってうれしかったです。

Hおばあさんの部屋で、広域公園の紅葉を見せてもらいました。ケアハウスのみなさんは、とてもやさしくて、親切でした。Hおばあさんが、「土日遊びに来てね。」と言ってくれました。とてもうれしかったです。ほかのおばあさんたちもとても明るく、楽しかったです。



< 地域への活動の発信 >



10月29日（月） 情報の発信「今回の体験で学んだことを発信しよう」

ねらい

活動を振り返り、そこから学んだことを地域へ発信する。

活動の概要

「地域の方々と交流して学んだこと」や「学んだことをこれからの生活にどう生かしていくか」を発信する内容に応じ、地域の人々、家庭、先生、友達、自分等にあて、手紙を書いた。

< 地域の方への発信 >

お元気ですか？私は、みなさんと一緒にピアノを弾いて歌った女の子です。覚えていますか。あの時は、とても楽しかったですね。ピアノの前で、どんな曲ならばみんなが知っているのかな？と私が悩んでいる時に、歌の本を持ってくださいましたね。ありがとうございました。でも、「泳げたい焼き君」が、その本に載っていたから、ちょっと不思議でした。お別れが近くなった時、ハマグリのかわいいお人形や、ひもで作ったワンちゃん、広告で作ったチョウチョをくれましたね。うれしかったです。ありがとうございました。

< 自分への発信 >

こんにちは、この前、ケアハウス花巻へ行ったとき、Kさんは、大きな声で挨拶をやって良かったです。輪投げの時も応援をちゃんとやっていただき、一生懸命やっていました。最高得点が、14点という結果で終わってしまったのもう少し頑張っただけ良かったです。悪かったところは、個人的な会話ができなかったことなので、次に機会があれば、その時に会話をしてほしいです。おじいさんおばあさんとの交流が大切だということを忘れないでください。



< 地域への情報の発信 >

(2) 実践結果の分析・考察

児童の学習活動における学習シートや手紙の記述により、具体的な指導場面における児童の具体像と照らし合わせながら、指導の効果について分析します。

ア 児童の学習状況からとらえた指導の効果

(ア) 「自己理解力」の育成について

「自己理解力」の育成については、「考え、選択する『自分の活動を考えよう』」、「情報の発信『今日の活動で学んだことを発信しよう』」の場面における学習シートや手紙の記述により分析を行います。

考え、選択する「自分の活動を考えよう」

<自分の活動を考えた後の、自己理解に関する学習シートの記述から>

- ・自分は、あやとりが好きだから、おじいさんおばあさんたちと、会話をしたりあやとりをしたりする。早くケアハウスに行ってみたい。
- ・何をするか悩んだけど、体を動かすのが好きだから、花壇の草取りをしたい。
- ・初めての活動だったので、どうしていいか分からなかったけど、私は歌を歌ったりピアノを弾いたりするのが好きだから、ピアノを使って合唱を試してみたい。
- ・私は、お手伝いが得意なので、部屋の窓ふきや草取りを試してみたい。これからおばあさんと会話をするのがとても楽しみです。
- ・あやとりが好きだからおばあさんとあやとりがしたい。話好きなので、ヘルパーさんや園長先生と話したい。計画がうまくいけばいいなと思いました。
- ・ピアノを弾いたり、話をしたりすることが得意。遊ぶことも大好きなので、おじいさんおばあさん、ヘルパーさんと会話をしたり、輪投げ等の遊びがしたい。
- ・あんまり得意じゃないけど、人を楽しませたりすることがしたい。N君とM君と、おじいちゃん、おばあちゃんが喜ぶことをしたい。

学習シートの記述をみますと、「あやとりが好きだから」「体を動かすのが好きだから」「歌を歌ったりピアノを弾いたりするのが好きだから」「お手伝いが得意なので」、または「あんまり得意じゃないけど、人を楽しませたりすることがしたい。」というように、自分の適性を考えながら活動を選択しています。このことから、ケアハウスでの自分が何をすることを考える活動は、お年寄りや職員の方々をより喜ばせようとするため、自分は何が好きなのか、何ができるのかを考えさせ、自己理解を深めることに効果があると考えられます。

情報の発信「今日の活動で学んだことを発信しよう」

<地域への情報の発信活動における「自分への手紙」から>

よく頑張って草取りをしたね。次のケアハウスでの活動でも頑張ってください。
今回は、ケアハウスで草取りをしたので、次は草取りでないことを試してみてください。Hくんは、もっともっと違うことをやれば、おばあちゃんおじいちゃんと仲良くなれると思うよ。バイバイきん。

<地域への情報の発信活動における「自分への手紙」から>

こんにちは、この前、ケアハウス花巻へ行ったとき、Kさんは、大きな声で挨拶をやって良かったです。輪投げの時も応援をちゃんとやっていたし、一生懸命やっていました。最高得点が、14点という結果で終わってしまったのでもう少し頑張っておしかったです。悪かったところは、個人的な会話ができなかったことなので、次に機会があれば、その時に会話をしてほしいです。

「今日の活動で学んだことを発信しよう」の活動場面では、地域への情報の発信活動として、「自分への手紙」を書いたHくんは、「よく頑張ってお草取りをしたね。次のケアハウスでの活動でも、頑張ってくださいな。」「今回は、ケアハウスでお草取りをしたので、次は草取りでないことをしてみてください。Hくんは、もっともっと違うことをやれば、おばあちゃんおじいちゃんと仲良くなれると思うよ。」と、自分の活動を客観的に観察し、自分を共感的に評価した記述がみられます。また、Kさんは、「大きな声で挨拶をやって良かったです。輪投げの時も応援をちゃんとやっていたし、一生懸命やっていました。」「悪かったところは、個人的な会話ができなかったことなので、次に機会があれば、その時に会話をしてほしいです。」と記述しています。このことから、活動を振り返り地域へ情報を発信する活動は、地域の方々との交流をとおして、自分の言動がどうだったのかを掘り下げて考えることができ、自己理解を深めることに効果があると考えられます。

以上のことから、自分にできることを考え自分の活動を選択すること、活動を振り返り学んだことを地域へ発信することは、「自己理解力」を培うために有効であるという見通しをもつことができました。

(1) 「他者への共感的理解力」の育成について

「他者への共感的理解力」の育成については、「活動の発信『ケアハウス花巻訪問』」、「情報の発信『今回の体験で学んだことを発信しよう』」の場面における学習シートや手紙の記述により分析を行います。

活動の発信「ケアハウス花巻訪問」

<ケアハウス花巻での活動後の、他者への共感的理解に関する学習シートの記述から>

- ・ Hちゃんは、メガネをかけたおばあちゃんをエレベーターと一緒に乗せてあげていました。
- ・ Mさんたちは、おばあさんの気持ちを考えてあやとりをやっていました。
- ・ T君とH君とS君とT君は、たくさん肩たたきをしていました。それからたくさんのおばあさんをたたいていたので頑張ったと思います。それから、おばあちゃんやおじいちゃんとたくさんお話をするととても楽しそうでした。
- ・ Y君は、玄関掃除をしている時、きちんと掃除をしていたのですごいと思った。
- ・ R君とT君は、玄関掃除の時に、一生懸命ほうきではいていたのですごいと思いました。あと、T君は、輪投げの時に、一生懸命頑張っていました。

学習シートの記述をみると「Hちゃんは、メガネをかけたおばあちゃんをエレベーターと一緒に乗せてあげていました。」「Mさんたちは、おばあさんの気持ちを考えてあやとりをやっていました。」

「T君とH君とS君とT君は、たくさん肩たたきをしていました。」「Y君はきちんと掃除をしていたのすごいと思った。」「R君とT君は一生懸命ほうきではいていたのすごいと思いました。」というように、お年寄りとの交流活動のなかで、相手のいたわりや相手を思う気持ち、友達の活動を認める記述を行っています。このことから、「ケアハウス花巻」への活動の発信は、地域の方々との交流をとおして、相手の立場や心情を考えたり、相手の行動の良い点を理解したりすることができ、共感的に他者を理解することに効果があると考えられます。

情報の発信「今回の体験で学んだことを発信しよう」

<地域への情報の発信活動における、他者への共感的理解に関する手紙の記述から>

- ・この前は、たくさんお話ができてとても楽しかったです。おばあさん達の時代は、学校へ行けない人もいたそうですね。でも、今は学校へ行けて幸せです。
- ・元気ですか。トウモロコシをクマにあらされて大変でしたね。草取りは大変だったけど、たくさん草が集まって良かったです。
- ・草取りをしながら話ができ、とても楽しかったです。戦争の時は、何もなかったそうなので、かなしいなと思いました。僕は夢があるので自分の夢に向かって頑張っていきます。
- ・とても話すのが楽しくて、終わりの時間がこなればいいのにと感じていました。また、ベットから落ちないように気をつけてください。また、Hおばあちゃんに会いたくてうずうずしています。そっちの方で、クマが出るようなので十分に気をつけてください。
- ・おじいさん、お元気ですか。ドングリの首かざりはすごく気に入ったよ。今は、机の上にかざっています。おじいさんは、ドングリの首かざりを作るのがすごく上手ですね。また遊びに行くから待っていてね。そしてもし良かったら、作り方をくわしく教えて下さい。
- ・今は、いろいろなものができているけど、昔は、靴などはなくて、ゲタなどで学校へ行っていたそうですね。北上川で泳いで遊んだ人もいたそうですね。また、今度ケアハウスに行きたいです。体に気をつけてくださいね。また、あそぼうね。
- ・僕の家にもおじいちゃんとおばあちゃんがいます。おばあちゃんはすごく優しいです。おじいちゃんも、たまにはきびしいけど本当は優しいです。おばあちゃんは60歳ぐらいだけど元気に床屋をやっています。ケアハウスのおばあさん達も、僕のおじいちゃんとおばあちゃんも、長生きしてほしいです。

手紙の記述をみますと、「おばあさん達の時代は、学校へ行けない人もいたそうですね。でも、今は学校へ行けて幸せです。」「トウモロコシをクマにあらされて大変でしたね。」「戦争の時は、何もなかったそうなので、かなしいなと思いました。僕は夢があるので、自分の夢に向かって頑張っていきます。」というように、おじいさんおばあさんの体験に共感したり、「ベットから落ちないように気をつけてください。」「おじいさんは、ドングリの首かざりを作るのがすごく上手ですね。」「体に気をつけてくださいね。」「ケアハウスのおばあさん達も、僕のおじいちゃんとおばあちゃんも、長生きしてほしいです。」というように相手に対するいたわりや思いやりの気持ちをもった記述がみられます。このことから、「ケアハウス花巻」への情報発信は、自分とは違う他者を共感的に受け入れ、他者理解に効果があると考えられます。

以上のことから、地域への活動及び情報の発信は、「他者への共感的理解力」を培うのに有効であるという見通しをもつことができました。

(ウ) 「役割取得力」の育成について

「役割取得力」の育成については、「情報の発信『今回の体験で学んだことを発信しよう』」の場面における手紙の記述により分析を行います。

情報の発信「今回の体験で学んだことを発信しよう」

<地域への情報の発信活動における、役割取得に関する手紙の記述から>

- ・ Hさんとは、演歌を歌う好みも一緒だし、小さい頃の遊び方も同じで、Hさんとはよく気が合うと思います。これから、行けるときは行こうと思います。今度行ったら、おじいさんやおばあさんを何日かかってもいいので、一人ずつ回ってみたいと思います。
- ・ この前は、話をしたり肩もみをされてどう思いましたか。僕は、肩もみはされていないけど楽しかったです。おばあちゃんは、よっぽどこっていたから、肩が鉄みたいに固かったです。おばあちゃん、もしまた会える機会ができたならまた肩もみをします。
- ・ 今回の体験で、おじいさんやおばあさんとの接し方がよくわかりました。これを今後のおじいさんやおばあさんとの交流で役立てたいと思います。園長先生とは話せなくてすみません。今度行った時は、園長先生ともっと話せるようにしたいです。
- ・ Aさんのおかげで窓ふきの仕方がよくわかりました。Aさんからいただいた、窓ふき用の紙をさっそく家に帰って、家の窓をふいてみました。この窓ふき用の紙は、すごくきくなあと思いました。その代わりに、家の窓も汚いなあとということがわかりました。
- ・ Aさんは、指が器用なそうで、広告紙で作ったものがたくさんあったので、すごいなあと思いました。私は不器用なので、お手玉も、広告紙でお人形を作ることもできないかもしれないけど、でも優しくてあったかい心は失いたくないです。

手紙の記述をみますと、「今度行ったら、おじいさんやおばあさんを何日かかってもいいので、一人ずつ回ってみたいと思います。」「おばあちゃんは、よっぽどこっていたから、肩が鉄みたいに固かったです。おばあちゃん、もしまた会える機会ができたならまた肩もみをします。」「次来たときは、窓ふきなどはちゃんとやります。次は、肩もみなどをやりたいと思います。」というように、これからの自分のやるべきことを記述したり、「これを今後のおじいさんやおばあさんとの交流で役立てたいと思います。」「Aさんからいただいた、窓ふき用の紙をさっそく家に帰って、家の窓をふいてみました。」「私は不器用なので、お手玉も、広告紙でお人形を作ることもできないかもしれないけど、でも優しくてあったかい心は失いたくないです。」というように、交流で学んだことを自分の生活にどのように役立てるかについて記述したりしています。このことから、活動を振り返り学んだことを地域に発信することは、自分の生活やこれからの行動について見直す機会を与え、集団における自分の役割について考えることに効果があると考えられます。

以上のことから、活動を振り返り学んだことを地域に発信することは、「役割取得力」を培うことに有効であるという見通しをもつことができました。

これらのことから、「地域の情報をもとに自分にできることを考え、自ら選択し、実行する」地域への発信活動にかかわる手だては、児童の「自己理解力」「他者への共感的理解力」「役割取得力」を培い、集団のなかで自己を生かすことのできる児童の育成につながり、さらには、児童の社会性を育成することに有効であるという見通しをもつことができました。

イ 集団のなかで自己を生かすことができる児童を育成するうえで必要とされる三つの力の変容状況
 【表3】は、集団のなかで自己を生かすことができる児童を育成するうえで必要とされる三つの力の変容状況について、指導実践の事前と事後に研究協力校第5学年の児童を対象に行い、サイン検定（変化の検定）でまとめたものです。

この結果、設問、 、 、 、 に有意差がみられました。

「自己理解力」にかかわる設問では、
 「自分の考えや行動のよい点をわかろうとしている」に有意差がみられ、
 「自分の好きなことや嫌いなことをわかろうとしている」「自分の考えや行動のよい点をわかろうとしている」については、有意差がみられませんでした。これは、地域との交流をとおして、自分のよさを活動に生かすことの大切さには気づきましたが、自分の嫌なことや悪い点などのマイナスの面について理解することは必要ないととらえたからであると考えます。

「他者への共感的理解力」にかかわる設問では、「友達の考えや行動のよさをわかろうとしている」「友達と協力して活動しようとしている」に有意差がみられました。これは、「ケアハウス花巻」における地域の方々との交流をとおして、友達のよさに気づいたり、協力して行動することの大切さに気づいたりしたことによるものと考えられます。また「友達の立場や気持ちをわかろうとしている」には、有意差がみられませんでした。これは、「ケアハウス花巻」のおじいさんやおばあさんへのいたわりや思いやりの気持ちはもてましたが、学級の友達の気持ちを考えるところまでは意識が高まらなかったものと考えられます。

「役割取得力」にかかわる設問では、

【表3】集団のなかで自己を生かすことができる児童を育成するうえで必要とされる三つの力の変容状況

N = 38

	設 問 内 容	L ₁	L ₂	検定結果
自己理解力	自分の好きなことや嫌いなことをわかろうとしていますか。	14	9	0.83
	自分の考え方や行動の仕方について、自分のよい点をわかろうとしていますか。	19	3	3.20*
	自分の考え方や行動の仕方について、自分のよい点をわかろうとしていますか。	15	6	1.75
他共者感的理解力	学級の友達の考え方や行動の仕方について、友達のよい点をわかろうとしていますか。	15	5	2.01*
	学級の友達の立場や気持ちをわかろうとしていますか。	14	7	1.31
	学級の友達のことを考えながら協力して活動しようとしていますか。	14	4	2.12*
役割取得力	学級のなかの自分の役割をわかろうとしていますか。	15	9	1.02
	学級のなかで、自分を役立てようとしていますか。	17	6	2.09*
	自分から進んで学級のためになるような活動をしようとしていますか。	16	5	2.18*

- 注1 事前調査は10月22日（月）、事後調査は、10月29日（月）それぞれ実施しました。
 注2 サイン検定のための集計は、対応するデータの事前調査と事後調査の変容が+変容であるものをL₁とし、-変容であるものをL₂としました。
 注3 サイン検定に用いた式は、下記に示すとおりです。

$$Z = \frac{|L_1 - L_2| - 1}{\sqrt{L_1 + L_2}}$$

- 注4 *は、有意水準5%で有意差のあることを示します。なお、5%水準のCR（臨界比）は、1.96です。
 注5 Nはすべての活動に欠席した生徒を除く数です。

「自分を役立てようとしている」「学級のためになるような行動をしようとしている」に有意差がみられ、「自分の役割をわかってしようとしている」には、有意差がみられませんでした。これは、学級において、自分を役立ててみようとしたり、学級のためになるような行動をしようとしたりする意識はもてましたが、学級での自分の役割を理解するまでにはいたっていなかったためと考えます。このことから、一部の意識の変容はみられなかったものの、全般的に本研究の指導実践は、児童の「自己理解力」「他者への共感的理解力」「役割取得力」を培い、児童の社会性を育成するうえで効果があったということが出来ます。

ウ 推進試案に基づく指導実践の指導の効果

【資料2】は、地域への発信活動の指導実践終了後の担任教師による「指導実践の感想」です。指導の効果についてこれにより分析・考察を加えます。

【資料2】 指導実践後の概要

最初、教室での授業では、自分へのよさを見つめながら、それをうまく盛り込み、自分が何をしたいのかを、じっくり考えることができました。用紙に書いて整理していくなかで、だんだんと考えが明確になってくる様子が分かりました。

ケアハウスでの活動で、何よりも驚いたのは、子どもたちの生き生きとした表情でした。

初対面なのにもかかわらず、和やかに積極的に対応できたのは、やはり事前に自分が何をしたいのかがはっきりしていたからだと思います。自分のよさを発見したり、再確認したりできたことは子ども達にとつて大きな財産になったと思いますし、自分の対応で、相手が喜んでくれたという事実は、かけがえのない自信につながったと思います。

お別れの時に、涙ぐんでいたおばあさんと握手をしたり、バスの中でいつまでも手を振っていたりした子どもたちの姿が印象的でした。その後、友達とケアハウスへ遊びに行った子どももいました。今後、この経験が生かされて、子ども達のいろいろな可能性が開くことを期待せずにはいられませんでした。

【資料2】から、地域への発信活動にかかわる手だてをとおして、児童は、「自分のよさを発見したり、再確認したり」して、自己に対する理解を深め、「お別れの時に、涙ぐんでいたおばあさんと握手をしたり」して、他者に対する共感的理解を深め、「初対面なのにもかかわらず、和やかに積極的に対応」して、自分の役割を果たし、「自己理解力」「他者への共感的理解力」「役割取得力」を着実に身に付けていることが分かります。

以上のことから、本研究で行った地域への発信活動にかかわる手だては、「自己理解力」「他者への共感的理解力」「役割取得力」を培い、集団のなかで自己を生かすことのできる児童の育成につながり、さらには児童の社会性を育成することに役立つということが明らかになりました。

地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導の在り方についての研究のまとめ
本年度の研究の目標は、2年次研究の完結年度として、推進試案に基づき、指導実践計画を立案し、指導実践と実践の分析と考察をとおして、地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導の在り方について明らかにすることでした。

ここでは、本年度明らかになったことについて、「成果として考えられること」「課題として考えられること」の二点についてまとめることとします。

1 成果として考えられること

(1) 地域の「情報を取り入れ」、自分の活動を「考え、選択する」ことは、相手のために自分ができることは何なのか、できないことは何なのかという、自分の性格や能力などの適性について考えさせ、「自己理解力」を高めることに効果があると考えます。

(2) 地域への「活動の発信」は、地域の方々との交流をとおして、相手の立場や心情を考えたり、相手の行動のよい点を評価したりすることができ、「他者への共感的理解力」を高めることに効果があると考えます。

(3) 活動を振り返り、学んだことを地域へ「発信」する活動は、小学校において、活動のなかで自分の言動がどうだったのかを掘り下げて考えることができ、「自己理解力」を高めること、相手の立場や心情を理解しながら、相手を共感的に受け入れることができ、「他者への共感的理解力」を高めること、交流で学んだことを自分の生活にどう役立てることができるのか、誰のために役立てることができるのかを考えさせ、「役割取得力」を高めることの三つに効果があると考えます。

2 課題として考えられること

(1) 「会話の進め方を学ぼう」のスキルの習得の場面で、友達同士のリハーサルだけでは、実際の地域の方々との会話を進めることができない児童生徒もみられますので、リハーサルのときには会話の相手を工夫することが必要です。

(2) 活動をとおして培った「他者への共感的理解力」や「役割取得力」を、学級レベルにまで高めていくための手だての工夫が必要です。

以上のことから、課題として考えられることに示してある配慮事項はあるものの、学校における教育活動のなかに、地域とかかわる活動として「地域の情報をもとに、自分にできることを考え、自ら選択し、実行する」地域への発信活動を取り入れていくことは、児童生徒の社会性を育成することに効果があると考えます。

研究のまとめ

1 研究の成果

この研究は、平成12年度から二年間にわたって行われたものであり、ここでは、この二年間の研究の成果と課題について概括的にまとめることとします。

(1) 地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導に関する基本的な考え方の検討

主題にかかわる先行研究と文献により、地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導の在り方について検討することができたこと。

(2) 地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導に関する基本構想の立案
地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導に関する基本的な考え方に基づき、地域の情報をもとに、自分にできることを考え、自ら選択し、実行する、地域への発信活動の指導の手だてを明らかにした基本構想を立案することができたこと。

(3) 地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導についての推進試案の作成
地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導の基本構想と、推進試案作成の視点に基づき、「ガイダンスの場の設定」「社会的スキルの習得」「人のためになる活動の工夫」を位置付けた推進試案を作成することができたこと。

(4) 地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導の指導実践計画案の立案
地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導についての推進試案に基づき、指導展開の手順を具体化した「指導実践計画案」を作成することができたこと。

(5) 指導実践計画案に基づく指導実践と実践結果の分析・考察

地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導の「指導実践計画案」の妥当性を検証するため、研究協力校における指導実践をとおして実践の分析・考察を行うことができたこと。

(6) 地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導の在り方についてのまとめ
指導実践計画案の作成や指導実践、実践結果の分析・考察をもとに、地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導の在り方についてまとめることができたこと。

2 今後の課題

この研究では、地域との連携を図りながら児童生徒の社会性を育成する生徒指導の在り方について、実践的に明らかにすることができました。

さらに、以下の点については、今後も指導実践を積み重ねていく必要があると思われます。

- (1) 地域への発信活動を一回だけの単発的な活動に終わらせるのではなく、学校から地域へ、そして地域から学校への相互のやりとりを繰り返し、学校と地域との連携を強めること。
- (2) 学校からの発信を受け入れることのできる、「開かれた地域」の受け皿づくりを推進すること。
- (3) 小学校の実践のうえに立って、中学校における実践の活動の場や活動内容を吟味するなど、小・中関連の在り方を考えていくこと。

おわりに

この研究を進めるにあたって、ご協力をいただきました研究協力校の校長先生をはじめとする諸先生方に心から感謝を申し上げ、結びとさせていただきます。

【主な参考文献】

- | | | | | |
|------|----|--------------------------|---------|-------|
| 門脇厚司 | 著 | 「子どもの社会力」 | 岩波書店 | 1999年 |
| 清水賢二 | 著 | 「少年非行の世界 空洞の世代の誕生」 | 有斐閣 | 1999年 |
| 國分康孝 | 監修 | 小林正幸・相川充 編 | | |
| | | 「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる」 | 図書文化社 | 1999年 |
| 滝 充 | 編者 | 「ピア・サポートではじめる学校づくり 中学校編」 | 金子書房 | 2000年 |
| 諸富祥彦 | 著 | 「自分を好きになる子を育てる先生」 | 図書文化社 | 2000年 |
| 小林正幸 | 著 | 「学級再生」 | 講談社現代新書 | 2001年 |